

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177500238		
法人名	有限会社 やすらぎ		
事業所名	グループホーム いなほ		
所在地	北海道滝川市江部乙町1022番地 (電話) 0125-75-3770		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年5月19日	評価確定日	平成20年6月25日

【情報提供票より】(平成20年 5月19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤4人, 非常勤3人, 常勤換算2.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000~27,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 1日150円 理美容 実費
敷金	無	暖房費(9月16日~4月15日)	1日300円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(5月19日現在)

利用者人数	5名	男性 1名	女性 4名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	0名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	1名
年齢	平均 81.5歳	最低 72歳	最高 88歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝川市立病院、えべおつファミリークリニック、みやこし歯科診療所
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の農家を利用したグループホームです。管理者のホームに対する真摯な想いが職員に浸透しており、利用者本位のケアが日々実践されています。毎日の食事は、その日に利用者として職員が共同で考え、買物、調理、食事を共にし、家族として生活しています。利用者は我家のように寛がれ、職員との会話が自然な空気となっています。独特の情報収集要綱に基づいて、利用者の生活歴や病歴が把握され、職員全員で介護計画が作成されています。地域との交流には力を入れ、年に1度ホームのお祭りを開催し、町内の活動のひとつに位置づけられています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題であった、医療関係との連携・退院支援、ホーム内の衛生安全管理、地域との交流・ホーム行事への積極的な参加の働きかけ、災害時の応援体制などが話し合われています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成には全職員が参加し、共有した意識、ケアの振り返りなどが可能となるため、今後は自己評価のねらいや活用方法を理解し、改善への取り組みに利用するなど、具体案の検討がなされることを期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域への働きかけは、行なわれていますが、まだ運営推進会議の開催には至っていません。家族の方々、地域住民の方々、医療関係者、行政職員、有識者に参加をいただき、貴重な意見を活かすため、2ヵ月毎の開催を定例化することが望ましく、今回の自己評価や外部評価の結果も議題に含めながら、サービス向上に活かされるよう期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	常に家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気づくりに努めています。意見や要望には、「まずはやってみよう」その結果から家族の方々と一緒に、方向を考えるように努めています。毎月「いきいき通信」を発行し、家族の方々に暮らしぶりや心身の状況、金銭預かり明細書も毎月お送りしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には加入できていない。田園の一軒家であることから、地域性もあり困難な面もあります。ホーム行事である夏祭りの開催時は、地域に参加の呼び掛けを行ない、毎年多くの住民の方々が参加され、利用者や職員にとっても、大きな楽しみとなっています。今後も地域との係わりに力を入れる予定となっています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、ホームの見やすいところに明示され、全職員に浸透し、理念を実践するため日々努力されているが、制度改正に合わせた地域密着型サービスとしての、理念の見直しや職員間での話し合いは、行なわれていません。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、住み慣れた地域での安心した暮らし、地域との関係性が継続できるようなホーム独自の理念を再度作りあげていくことを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「人を人として人らしく」の理念を合言葉に、利用者のために何ができるかをいつも心に置き、職員間で共有している。また日々のケアサービスにおいても、介護方針にこめられた思いの実践に向け、取り組んでいます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入できていないが、田園の一軒家であることから、地域性もあり困難な面もある。しかし、ホーム行事である夏祭りの開催時は、地域の方々に参加の呼び掛けを行ない、毎年多くの住民の方々が参加されている。今後も、地域との係わりを深めるために力を入れる予定です。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価での課題である「医療と健康支援」「内部の運営体制」「地域との交流」については、医療関係との密なる連携・退院支援、ホーム内の衛生安全管理の心がけ、地域とのこれまで以上の交流・ホーム行事への積極的な参加の働きかけ、災害時の応援体制など改善に取り組んでいます。	○	自己評価に関しては、全員で取り組んでいるが、それを活かすために改善への取り組みに利用するなど、具体案の検討がなされることを期待します。

滝川市 グループホーム いなほ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域への働きかけは行なっているが、運営推進会議の開催は、まだ行なわれていません。	○	会議における貴重な意見などを活かすため、2ヵ月毎の開催を定例化することが望ましく、また、今回の自己評価や外部評価の結果も議題に含めながら、サービス向上に活かされるよう期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する研修会や、会議などへ積極的に参加し、ホームとしての係わりや相談も行なっている。施設長は認知症キャラバンメイトの会「介護サービス連絡協議会」の役員でもあり、地域住民の認知症の理解・広報、福祉職員の質の向上や現場での講師として活躍しています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方々の来訪時は、日々の暮らしぶりや心身の状況を伝え、来訪できない家族には、電話や状況報告書で伝えている。毎月「いきいき通信」を発行し、利用者の日常の様子を伝えている。金銭管理については、預かり金収支明細書を毎月お送りして、明細を明らかにしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の方々との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気づくりに努めている。また、意見や要望が出た際には、「まずはやってみよう」の考えで、その結果を踏まえ、家族の方々と一緒に方向を考えるように努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	サービス内容の十分な引き継ぎ、利用者へ説明、新任者の紹介などを、利用者一人ひとりに合わせて、説明方法を工夫しながら行なっている。利用者への影響を考慮し、精神的負担の軽減に努める配慮も行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、人材育成の重要性を認識しており、また、職員の自主性を尊重する考えで、希望する研修には、積極的に参加させている。参加後は、報告書を作成し職員間での共有化も図られている。日常のケアの中でも認知症に係わる本質を伝えています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、関連会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者や、福祉関係者と交流の中で、情報収集や意見交換を行なっている。ネットワーク作りを積極的に提案し、体制作りにも今後取り組んでいくとのことである。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者や家族の方々と十分に面談を行ない、見学した後に入居となることや、緊急性からすぐ入居となることもある。常に利用者一人ひとりの納得できる方向性を見出し、全員が馴染みやすく、家族として暮らせるような環境作りが行なわれています。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なこと、係わりのなかから、昔の生活の発見があり、活躍できる場面づくりへ持っていけるような支援が行なわれている。また、昔話や日常生活の知恵を教わったり、共に支え合う関係が築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特徴ある独自のアセスメント書式の利用により、生活歴や家族との係わり、そのほか細かな情報内容を記載し、身近な家族として、一緒に応援できるような取り組みを行なっている。利用者本位を常に心がけ、一人ひとりの人生を大切に支援しています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム独自のアセスメント書式を活用し、利用者の思いが汲み取れる内容になっている。また、家族の意見や希望を採り入れ、全職員で話し合いながら介護計画を作成している。それぞれ担当を決め、毎月の身近な目標を、職員が短期目標シートとして作成し、毎月状況報告書に整理し家族の方々にも報告しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員が作成した個別介護計画書をもとに、それぞれの職員が設定した短期目標シートから状況報告書として結果が報告されている。その後全員で現在の状況を検討し、医療関係者の意見もいただき、今後に向けた新たな計画書が作成されています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の方々の希望に応じて、かかりつけ医への通院介助や外出時の付き添いなど、柔軟な支援が行なわれています。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診支援や協力医療機関による往診などの受診支援が行なわれている。看護師の配置により、利用者は、健康面についても気軽に相談することができるなど、健康管理も行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係医療機関と連携を図り、スタッフも一緒に参加するカンファレンスにおいて、情報の共有が図られ、利用者本位に心がけた支援となっています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの性格や状況を把握し、声かけや自尊心を傷つけないよう、さりげない対応に心がけている。各種書類についても、所定の場所に保管し、守秘義務の徹底も周知されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設長やスタッフは、ホームとしての1日の流れや生活リズムへのこだわりはなく、利用者も、自由に思い思いの時間を過ごされている。一人ひとりの時間を大切に、スタッフも、そのような係わり方を当たり前として支援しています。		

滝川市 グループホーム いなほ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者で買物に行き、「今日は何を食べるか」考えたメニューで調理を行い、職員と一緒に食事を取っている。その日その日を大切に、「人を人として人らしく」の理念が、ここにも活かされている。利用者も調理や後かたづけなどの役割を十分に果たしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、時間や日にちは決められていなく、入りたい時に入れる体制となっている。二日に一度は入浴し、利用者の楽しみの一つとなっている。失禁などの清潔保持には、プライバシーの尊重を心がけ、さりげない対応で行なわれています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、普通の生活として、日常の家事をできる部分で積極的に行なっている。スタッフも普通に応援し、家族として、一緒に生活していることが伺える。自室の清掃や洗濯干し、新聞取り、カーテンの開け閉めなど、したいことが一人ひとりの役割になっています。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、通院への付き添いなど、天候や利用者の状態に応じて、外出支援を行なっている。また思いつきで遠出になったり、出かけたついでに、外食したりと普通の生活が当たり前に行なわれています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、鍵をかけない安全な暮らしについて理解しており、一般の家庭と同じく、日中は施錠していない。職員は、外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の中には、さりげない声かけや、見守りも行なわれ、地域の方からの連絡もあり、助けられています。		

滝川市 グループホーム いなほ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は、消防署の協力を得て、消防署での防災訓練を行ない指導を受けている。消防団の協力や地域の協力は、日頃の生活の中で構築している。しかし、ホーム内で利用者と共に避難訓練は、まだ行なわれていません。	○	利用者の安全を、より確実なものとするためにも、利用者一人ひとりの具体的な避難誘導策などを検討し、日中、夜間を想定した避難訓練など、不測の事態に備える取り組みが望まれます。また指定の緊急避難場所を家族の方々にお知らせするよう期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が、食べたい物を作ることが基本とされ、利用者と職員と一緒に調理しているが、水分摂取量・食事量・バランスには気をつけている。個別記録も行なわれ、職員が情報を共有できる仕組みになっています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節を感じることでできる飾り付けが行なわれ、一般住宅と同じ感覚で、のんびりと利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光なども適宜調節されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが、使い慣れた馴染みの家具や仏壇、生活用品を持ち込み、家庭的雰囲気の中で、居心地良く過ごせる空間作りがなされている。民家の利用であり、今まで生活してきた空間と変わらない、生活が感じ取れます。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。